

継続的な連携支援を経て時間延長 1.5 倍と UD ブラウザを使い高校受験した弱視の 1 例

A case of low vision allowed 1.5-times longer time to take a high school entrance exam via the use of a UD browser and continuous collaborative support

稲葉 純子

(いなば眼科クリニック、京都ロービジョンネットワーク)

Junko INABA

(Inaba Eye Clinic, Kyoto Low Vision Network)

要旨：

目的：継続的な連携支援を経て 2022 年度高校普通科入試で京都府初の時間延長 1.5 倍、iPad で UD ブラウザ使用の配慮を得た弱視生徒の 1 例を報告する。

症例：通常学級在籍の中学生で視力右 (0.02)、左 (0.05)。眼科医、小学校入学時より教育相談による継続支援を行う京都府視覚支援センターが在籍中学校からの高校入試配慮申請を支援した。

結果：申請内容は①別室受験、②時間延長 (教科により 1.3-1.5 倍)、③休憩時間の確保、④ iPad と UD ブラウザでの問題閲覧、⑤問題用紙の PDF 書き出しデータ提供、⑥紙の拡大問題 2 部提供、⑦紙の問題用紙へ複数色マーキング、⑧視覚補助具の持込等。私立高校では配慮を得た。公立高校では一部不許可とされ中学校、センター、眼科医が連携し追加の申請書提出、眼科医の高校・京都府教育委員会の入試担当部署との面談を経て配慮がほぼ全て認められた。

考察：中学校、センター、眼科医の連携支援の継続を基盤とした配慮要望が有効だった。

キーワード：高校受験、弱視、時間延長 1.5 倍、iPad、UD ブラウザ

Abstract

Objective: To report the case of a student with low vision who was the first in Kyoto Prefecture to be given a 1.5-times-longer extension of time and special considerations to complete the standard-course high school entrance examination using a universal design browser (UDB) on an iPad following continuous collaborative support. Case: This case involved a standard-course junior high school student with a corrected visual acuity of (0.02) OD and (0.05) OS. An ophthalmologist and the Kyoto Visual Support Center (KVSC), which had provided continuous support via educational consultation from the time the student entered elementary school, assisted the student's junior high school in applying for special considerations for the high school entrance examination. Results: The application requests included 1) a separate examination room, 2) a time extension (1.3-1.5 times

longer depending on subject), 3) regular break times, 4) viewing questions on an iPad with UDB, 5) providing PDF export data of question papers, 6) providing two copies of enlarged paper questions, 7) marking multiple colors on question papers, and 8) the use of visual aids. All requests approved by a private high school. Post initial rejection from a public high school, the application was approved by the school via collaboration between the junior high school, KVSC, and the ophthalmologist in submitting additional applications and the ophthalmologist being interviewed at that school and the Kyoto Prefectural Board of Education in charge of entrance examinations. Conclusions: Requests for considerations based on continued support from the junior high school, KVSC, and the ophthalmologist were effective.

Key Words: high school entrance examination, low vision, 1.5-times-longer, iPad, universal design browser (UDB)

1. 目的

京都府の公立高校入学者選抜（以下、高校入試）の特例措置（合理的配慮）は各選抜において中学校が窓口となり高校へ特例措置の申請を行うことになっており、具体的には中学校の校長が申請書を作成し志望先高校の校長に提出する。選抜要項（京都市教育委員会，2021）には配慮内容について具体的な記載はなく、時間延長 1.5 倍やタブレット端末使用は他の障害を含め 2021 年度入試まで前例はなかった。また要項内に配慮結果通知期日の記載はない。

2022 年度京都府立高校の普通科入学者選抜に京都府で初めて時間延長 1.5 倍、iPad で UD ブラウザ（以下、UDB。中野ら（2016）が開発したロービジョンの生徒のための教科書閲覧アプリ。紙と同じレイアウトで表示させるレイアウト表示モードと文字情報のみを表示するリフロー表示モードを切り替えて使える。後者では文字サイズを拡大しても折り返して表示でき行たどりが容易である）使用の合理的配慮を得た弱視生徒の 1 例を報告する。

2. 症例

公立中学、通常学級に在籍する両眼先天無虹彩の中学 3 年生。遠見視力は右 (0.02)、左 (0.05)、最小可読視標は視距離 10cm で 0.2、臨界文字サイズは視距離 5cm で 27 ポイント、読書速度は 190 文字 / 分である。視野狭窄、色覚異常は認

められない。眼科医ならびに小学校入学時から教育相談を行う京都府視覚支援センター（京都府立盲学校内の組織。以下、センター）が継続的に連携して支援してきた。在籍中学校（以下、中学校）の授業では iPad、UDB を多用し、ターンテーブルのない拡大読書器で黒板や配布資料を見ていた。校内試験では眼科医からの情報提供とセンターの提案をもとに中学校が合理的配慮を模索、決定してきたが、中学 3 年生 1 学期に眼疾患の進行により視力が前述の値まで低下しそれまでの時間延長 1.3 倍と問題用紙の拡大では対応できなくなった。そのため中学 3 年生 2 学期より時間延長を国語科、社会科では 1.5 倍とし、問題文の閲覧や回答用紙（記述式）への記入に iPad やターンテーブル付きの拡大読書器を使用するようになった。

本生徒は 2022 年度高校入試において、私立高校入試（実施は 2022 年 2 月）、公立高校前期選抜（同 2 月）、同じ公立高校の中期選抜（同 3 月。一般入試に相当）の受検を希望し、中学校から志願先の高校への「学力検査等の受検上の特例措置申請」（以下、配慮申請）をセンターと眼科医が連携支援した。

3. 結果

3.1. 配慮申請までの経緯と申請内容

2021 年 4 月から 5 月に眼科医と中学校が各高校に受検上の配慮申請について問い合わせを行った。2021 年 7 月から 8 月に各高校を本生徒、

中学校教員、眼科医が訪問し、個別相談を行った。相談において眼科医より高校に本生徒の見え方と中学校での配慮内容、受検時に希望する配慮内容、視機能が低下した場合は希望する配慮内容を変更する可能性がある旨の情報提供書を提出し内容を説明した。規定のとおり、10月より11月にかけて中学より各高校へ特例措置申請書を提出し、申請書には眼科医の情報提供書を添付した。申請した配慮内容は、在籍中学校での配慮実績と根拠、医療機関における検査結果に基づいて表1の内容(①～⑪)とした。

3.2. 私立高校の配慮結果

私立高校からは12月に「申請内容を認める」旨の回答を得て翌年2月に受検した。

3.3. 公立高校の配慮「速報」

公立高校からは12月以後に回答が「速報」という形で順次出された。当初、①別室受験、⑥紙の拡大問題用紙を2部提供、⑧視覚補助具等の持込、⑨大きな机等の提供、⑩事前の下見と相談、開始前の機器の設置については認められた。②の試験時間延長は全教科1.3倍とし国語科と社会科の1.5倍延長は不可、③の休憩時間については短縮、④iPadでUDBによる問題閲覧、⑤問題用紙のPDF書き出しデータ提供、⑦紙の拡大問題用紙への複数色マーキングは不許可とされ、各決定について理由の明示はなかった。⑪の視機能変化に応じた流動的な対応については特にコメントはなかった。

3.4. 公立高校の配慮「速報」への対応

「速報」の内容では本生徒が受検時に十分に力を発揮できないことは明白であり、中学校、センター、眼科医で直ちに対応を協議した。三者で内容を確認しつつ中学校は高校へ追加の申請書と添付資料を3回提出し配慮を要望し続けた。その後も配慮が得られないため、中学校、センター、眼科医がそれぞれの上部機関である市教育委員会、京都府教育委員会特別支援課、京都府眼科医会に報告と相談を行った。

2月初旬に前期選抜配慮事項が中学校に通知され、②試験時間の延長と③休憩時間の確保に

表1 申請した配慮内容

- ①別室受験（明るく、カーテンで光量を調節できる部屋）
- ②試験時間の延長（国語科と社会科は1.5倍、数学科と理科と英語科は1.3倍）
- ③他の生徒と同様の休憩時間の確保
- ④iPadを利用したUDBによる問題閲覧（リフロー表示モードを含む）
- ⑤問題用紙のPDF書き出しデータ提供
- ⑥紙の拡大問題用紙を2部提供
- ⑦紙の拡大問題用紙において問題文の傍線部や記号と対応する設問に色を一致させた複数色によるマーキングを行うこと
- ⑧視覚補助具等の持込（拡大読書器、拡大鏡、iPad固定用アームスタンド、書見台、等）
- ⑨大きな机と通常の生徒機の提供
- ⑩事前の下見と相談、開始前の機器設置
- ⑪視機能の変化に応じた直前までの流動的な対応

については申請通り認められた。④iPadでUDBによる問題閲覧と⑤問題用紙のPDF書き出しデータ提供については「iPadでBookアプリを用いた問題閲覧」が認められ、「問題用紙の画像データ提供」となった。⑦紙の拡大問題用紙へのマーキングは複数色ではなく単色でのマーキング、となり、2月中旬の前期選抜は、上記の配慮内容で実施された。試験後本生徒から「私立高校に比べ公立高校の試験では問題文が見えにくかった、単色マーキングでは問題文と設問の突合が難しい」との感想があった。

前期選抜後、中学校、センター、眼科医は、前期選抜で認められなかった「UDBでの問題閲覧」「問題用紙のPDF書き出しデータ提供」「紙の拡大問題用紙への複数色のマーキング」を中期選抜で認めてもらうための対応を協議した。

前期選抜の後、眼科医が高校ならびに京都府教育委員会高校改革推進室（高校入試担当部署）と面談する機会を得た。面談において下記の通り、京都府教育委員会からは配慮を認めないとした理由等が示され、眼科医からは本生徒の見え方の困難さや配慮の合理性を説明し、配慮を

実現するための提案を行った。

②の試験時間の延長 1.5 倍と③の休憩時間の確保が当初認められなかった理由は「試験の最終に全館放送で実施する英語のリスニングの時間が変更できない」であったが、放送が別系統の校舎で試験を実施すること、またその対応が全 50 会場で可能なことを確認し前期選抜から配慮ができた、と説明された。

④の iPad と UDB による問題閲覧が認められなかった理由は、「タブレット使用の前例がないこと、UDB が標準アプリでなく安定性が不明であること、UDB のリフロー表示モードでは文字化けなどが起こること、漢字検索ができること、機器トラブル時に受検を保障できないこと」と説明された。眼科医より「視覚障害者のパソコン（タブレット端末を含む）を利用した受検は大学入学共通テストの配慮案内（独立行政法人大学入試センター，2021）に明記され同テストでは iPad 受験者の前例があること、本生徒にとって普段の学習や校内試験で使用する iPad と UDB での受検は力を発揮するのに必要不可欠なものであること、UDB は視覚障害教育の現場では現在標準的なアプリであること、UDB にはページ移動などの機能があるが前期選抜で使用した BOOK アプリにはないため BOOK アプリでは本生徒に不利になること、UDB のリフロー表示モードは今回の試験では必須ではなく UDB の PDF モードのみでも使用したいこと、12 月末に UDB がバージョンアップされ漢字検索が制限できるようになったこと」を説明し、「機器トラブル時の対応として iPad の代替機器の準備や、代替機器には UDB ではない一般的なアプリを利用すること」を提案した。

⑤の問題用紙の PDF 書き出しデータ提供が認められなかった理由は「担当部署での対応可否が不明である。画像データで受検できるのではないか」と説明された。眼科医より前期選抜を画像データで受検した本生徒から PDF 書き出しデータで受検した私立高校受検に比較して『見えにくかった』という感想があったことを伝えた。また画面拡大時には画像データでは PDF 書き出しデータに比べ視認性が落ちることを本生徒の見え方を疑似体験する眼鏡の装用下に確認

してもらい、PDF 書き出しデータの提供が必要であることを説明した。その上で担当部署への対応可否の問い合わせを要望した。

⑥の紙の拡大問題用紙への複数色のマーキングが認められなかった理由は、「正確なマークが保証できない、マークする時間がないため、前期入試では単色でマーク対応した」と説明された。眼科医より「本生徒の視機能からは傍線や波線の区別、添えられた記号の判別が困難であり、色をもって設問と突合しなければ回答に時間がかかる」ことを説明し、「多少不正確になっても単色よりは有利になるので複数色で実施してほしい」と要望した。

また、一連の特例措置の申請制度への要望として、「申請内容の検討に時間がかかると思われるので早期から申請を可能とすること」「生徒には決定した配慮内容に応じた準備が必要なため配慮通知書を早期に出すこと」「視覚障害は希少障害であり高校入試担当部署での情報収集、判断や対応が難しいこともあると思われる、そのような場合は府内の小・中学校等に在籍する視覚障害児童生徒を支援するセンター（盲学校等）へ相談・照会をしてほしいこと」を伝えた。

3.5. 公立高校の最終の配慮

その後、中学校から最終の配慮申請書を提出した。

3月初旬に中期選抜配慮事項が中学校に通知され、④の一部である「UDB のリフロー表示モード使用」以外の全ての申請内容が認められた。通知の 5 日後に中期選抜が実施された。

4. 考察

今回、受検上の配慮を得るまでに中学校、センター、眼科医で連携し、私立高校では申請した配慮が早期に全て認められたが公立高校では申請した配慮が得られるまでにかなりの時間を要した。その理由として配慮申請の決定にあたり、視覚障害の専門的知識を有する眼科医や教育関係者からその妥当性に関する意見を聴取するシステムが確立されていなかったことが考えられる。

その中で最終的に本生徒が配慮を得られたの

は、中学校、センター、眼科医が本生徒の中学校入学以後に継続して行ってきた連携支援を基盤として、受検時の配慮の申請と実現に各々の立場で尽力し連携をとりながら高校と京都府教育委員会の高校入試担当部署へ粘り強く働きかけたことの成果であると考えられる。

加えて眼科医会とセンター、京都府立盲学校は京都府内の視覚障害者支援を目的とした「京都ロービジョンネットワーク」(稲葉ら, 2021)の構成団体であり本事例以外でも連携体制が十分に取れていたことも本生徒の連携支援に有効であった。

さらに、連携支援を行いつつも眼科医、眼科医会という教育機関とは別の組織にいるものが比較的自由に動き、その結果として京都府教育委員会の高校入試担当部署と直接の面談が持つ専門的な意見を伝えられたことが中期選抜直前での配慮の実現に大きく寄与したと考える。

最後に、近年のICTの活用を含む視覚支援の進歩は目覚ましいものがある。本事例が前例として広く共有され、今後の視覚障害児童生徒が受検する際の合理的配慮の充実につながることを強く願う。

謝辞

本生徒の支援に係りご助言を賜りました大学入試センターの南谷和範先生、慶應義塾大学の中野泰志先生、その他多くの先生方にお礼申し上げます。配慮を得るまで共に頑張った、本生徒、保護者、府視覚支援センターと在籍中学校の先生方に厚くお礼申し上げます。

文献

- 独立行政法人大学入試センター (2021) 大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト受験上の配慮案内. 独立行政法人大学入試センター, 6, 8-9.
- 稲葉純子・中路裕・百々由加利・松永信也・大菅規子・沖田友子・鎌田さや花・鈴木佳代子・高橋綾子・高橋一夫・高間恵子・畑中宏樹・添田浩生・野口英樹・本谷美咲・牧和義・山本たろ・吉田麻里子・横田聡 (2021) 京都ロービジョンネットワーク設立3年後までの活動報告. 眼科臨床紀要, 14, 465-472.
- 京都市教育委員会 (2021) 令和4年度京都府公立高等学校入学者選抜要綱.
<https://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/cmsfiles/contents/0000288/288608/R4senbatsuyoukou.pdf>, (2023/5/1).
- 中野泰志・氏間和仁・田中良広・韓星民・永井伸幸 (2016) ロービジョンの生徒のための教科書閲覧アプリの開発(1). 日本ロービジョン学会誌, 16, 65-75.